



↑長沢理玄顕彰碑

↑宮城浩蔵追悼碑

↑菊地新学写真碑



千歳園碑



↑ケヤキの杜 市民写真作品



↑東宮親裁の松

↑国分寺薬師寺



↑薬師祭



↑植木市

2 鎮座する寺社と祭りの継承

鎮守の杜

市内各所に熊野神社や八幡神社、神明神社など古刹・名刹・大社と言われる多くの寺や社があります。それらの起源は古く、各社殿は幾度となく作り直されながらも信仰は連綿と続いています。ケヤキやエノキなどの大樹が見事な杜を護り、地域住民による行事やお祭りが受け継がれています。

社寺は軍事の守り

古来から北の鎮守は鳥海月山両所宮、南の鎮守は六槻八幡宮であり、多くの社はそれらの近くに配置されています。藩政期での寺配置は、旧街道沿いー羽州街道、六十里街道、笹谷街道、二口街道、高湯街道など一の城下町の出入口付近にまとまっています。

羽州街道には、北に鳥海月山両所宮、円応寺、龍門寺があり、南には六槻八幡宮、宝光院、誓願寺、浄光寺などがあります。二口街道には薬師寺、柏山寺と笹谷街道には専称寺と寺内、法祥寺、諏訪神社、常念寺などがあります。



昔からの寺や神社、そして受け継がれているお祭りについて調べましょう。



↑里之宮湯殿山神社



↑鳥海月山両所宮



↑節分祭



↑市神様



↑神輿祭



↑三島神社



↑三島神社門柱 (三島弥太郎筆)

山形城は平城で、軍事の上から寺社を中核とした宗教的・軍事的・文化的拠点にしようとしたのです。

藩主や県令の思い

寺社の創設は、城主や県令の思いに大きく関わっています。例えば最上義光は、娘「駒姫」の菩提寺である専称寺を中核に、多くの寺を配して寺内町を造りました。

県令三島通庸は、里之宮湯殿山神社を1876（明治9）年官庁街新設の地鎮祭・守護神として湯殿山本宮より旅籠町雁島（市役所西側）に分霊しました。1983（昭和58）年市役所新築のため、現在地の文翔館西に遷座しました。

また、緑町の三島神社は、その地にあった自分と同姓の三島稻荷神社に奇縁を感じ、静岡県の三島大社から分霊しました。門柱の揮毫は通庸の長男弥太郎で、山形県師範学校を卒業し、後に日本銀行第8代総裁となった人です。

ミニ知識 29

千歳公園には多くのお宝

千歳公園は、薬師公園とも呼ばれて、出羽国分寺薬師堂、柏山寺、護国神社一帯をさし、5月8日からおこなわれる「薬師祭・植木市」は400年の歴史をもつ山形の風物詩です。

薬師堂の仏殿（柏山寺の根本中堂）は、「旧山形県会仮議事堂」として県の政治の始まりに関わる県指定史跡です。元は現在の「もみじ公園」にあった「宝幢寺」で、県会議事堂が完成する1883（明治16）年までの5年間県会仮議事堂として使われ、1912（明治45）年に移築されたのです。

園内には、護国神社（明治2年創設、戊辰戦争から第二次世界大戦までの戦没者を祀る）や明治天皇が宿泊した建物を活用した料亭松閣があります。

また多くの記念碑があります。種痘を広めた長沢理玄（1815～1863）の顕彰碑や明治大学創始者のひとりである宮城浩蔵（1852～1893）の追悼碑（西園寺公望の題字、中江兆民の撰文）、東北初の写真館を開いた菊地新学（1832～1915）の碑、県令三島通庸が現在の山形東高と山形工業高周辺に開いた農業試験場の記念柱「千歳園」、松尾芭蕉の句碑などなどです。

山形北大火1911（明治44）年によるケヤキの焼け跡も残っている園内を、植木市の時だけでなく四季折々に散策してみると、山形の文化を紐解くきっかけが生まれるかも知れません。



↑宝光院と鉄鉢 ↓ 光禅寺と義光墓・庭園 ↓ 豊烈神社と打毬 ↓ 水野氏像



↑もみじ公園と宝紅庵での茶会 ↓ 六樞八幡と灯籠とケヤキ林 ↓ 光禅寺と義光墓・庭園 ↓ 唐松観音

村祭り

文部省唱歌「村祭」(♪村の鎮守の神様の 今日 はめでたい御祭日 ドンドン ヒャララ ドンヒャララ ドンドンヒャララ ドンヒャララ 朝から聞こえる笛太鼓♪) は、1912 (明治45) 年から人々に愛唱されてきました。

歌詞からは、この日が村社の神様の祭りの日であり、村をあげて農産物の豊年満作への祈りと感謝する気持ち が伝わってきます。また、笛や太鼓の音色からは、玉こんにゃくやどんどん焼きの匂い、笑顔で楽しんでいる人々のエネルギーや素朴さ、響きが浮かんできます。山形でも旧村での鎮守様のお祭りが、毎年おこなわれています。春の最も早い祭りは七日町の大龍寺薬師堂祭りで、一般的には秋季に多いようです。

五穀豊穰・悪疫退散・町内安全

表1のように、その地域の人だけでなく多くの人々が参加し見物に集まるお祭りもあります。祭りを楽しむ人々の範囲が広くなり、村祭りから都市祭りへ変容していると言えます。1月の山形市初市や5月の薬師祭・植木市は400年の歴史があります。初市では、昔ながらの縁起物である白髭、蕪、初飴、旗飴などを買い求める人々で溢れます。山形花笠まつりや蔵王樹氷まつりなどは、新しい都市祭りです。

また、湯殿山神社や歌懸稲荷神社、鳥海月山両所宮などの例大祭では御神輿渡御で賑わい、神社の周辺

表1

	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
山形の主な祭りと年中行事	中旬 ◆霞城観桜会 ●馬見ヶ崎さくらラインライトアップ			8 18 ◆湯殿山神社例大祭 (神輿渡御) ◆山寺山王祭 ◆薬師祭・植木市	26 ◆歌懸稲荷神社例大祭 (神輿渡御) ◆酢川温泉神社例大祭 ◆村木沢あじさい祭 ◆東沢のはたる	1 4 5 6 14 ◆山形夜行念仏・山寺磐司祭 ◆山形花笠まつり ◆花笠サマーフェスティバル山形県観光物産市 ◆鳥海月山両所宮例大祭 (神輿渡御)	15 24 6 18 27 ◆蔵王地蔵尊秋季大祭 ◆面白山のコスモス ◆六樞八幡宮例大祭 (神輿渡御) ◆日本一の芋煮会フェスティバル	◆豊烈神社例大祭 (古式打毬・神輿渡御) ◆蔵王地蔵尊秋季大祭 ◆面白山のコスモス ◆六樞八幡宮例大祭 (神輿渡御) ◆日本一の芋煮会フェスティバル	◆伝統工芸品まつり ◆もみじ公園等の紅葉 ◆諏訪神社例大祭 ◆義光公墓前祭	10 ◆蔵王樹氷ライトアップ ◆初市	◆山寺こけし・雪だるま祭 ◆蔵王樹氷まつり	◆山寺こけし・雪だるま祭 ◆蔵王樹氷まつり
	●三月節句 (お雛さま) ●彼岸	●蔵王エコーライン開き ●桜	●高い山 ●五月節句 (雛のぼり)	●冷やしラーメン ●七夕 ●さくらんぼ祭り	●盆踊り ●お盆	●彼岸 ●いも煮会 ●九月節句 (菊) ●ぶどう狩り ●名月	●紅葉 ●りんご狩り	●庚申講 ●新そば ●七五三	●だんごさし ●お斎灯 (オサイド) ●初詣 ●年越し ●スキー場開き ●つけ物	●節分	●節分	●節分



↑明治中期の「山形市街十景」より「千歳山、九十九橋」

には多くの屋台が並びます。10月の豊烈神社には、宮内庁と八戸市だけに残る「古式打毬」があります。馬上の騎士が古式豊かな衣装を身につけて、紅白に分かれて棒の先についた網に球を引っかけて的に投げ込みます。

境内には、明治の戊辰戦争で責任をとった家老水野三郎右衛門像があり、祭りを静かに見守っています。

地域民の絆

伝統的な祭りを維持するには、準備のための労力と資金が欠かせません。そして、地域に住む人々の「絆」が何よりも大切です。祭りは、親から子へ、子から孫へ伝え、地域を発展させる鍵とも言えます。

寺や神社の境内は、大樹が多い緑豊かな杜で市民の憩いの場でもあります。心身が踊り弾むお祭りと心穏やかに癒される自然環境を、これからも守っていききたいものです。

ミニ知識 30

古今の山形十景

「◇◇八景・十景・百景」として、地域の優れた景色を絵画や写真で選ぶことは、昔から幾度となく行われています。

山形でも明治中期の文人たちが絵画と俳句で著した掛軸「山形十景」が、山形大学附属博物館にあります。その十景とは、「千歳山、坂巻橋 (明治9年新築の常磐橋)、鳥海月山両所宮、吉原の桃畑、六樞八幡宮、耕源寺 (明治12年再建)、亀松閣 (明治17年薬師公園内に移設)、初市、九十九橋、霞城」です。

1978 (昭和53) 年には、山形市観光協会とハイヤー協議会等が「山形市街十景」として、「霞城公園、旧山形県庁舎、国分寺薬師堂、教育資料館、専称寺、唐松観音、千歳山・万松寺、平清水、光禅寺、石造明神鳥居」を選びました。

また、同会が10年後に「新・山形市街十景」として「教育資料館」を選外とし、「千歳山・万松寺」と「平清水」を合わせ、新たに「鳥海月山両所宮」と「もみじ公園」を加えました。

今、あなたなら十景としてどこの景色やどのような場面を選びますか。視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚の五感を高めて、素敵な景観や生活の様子を見つけましょう。そして、みんなで「平成の山形十景」として選んでみるのも、面白そうですね。きっと新発見があることでしょう。